かちまい論壇

レース月間

日本銀行
帯広事務所長
鈴木　正信

ランニングを趣味にしている私にとって、十勝の10月は待望の「レース月間」です。豊かな食のおかげで少々なまり気味ですが、三つのレースに出走しましたので、感じたことをお伝えさせていただきます。

まずは上旬に開催されたうらほろマラソン。大会前からHPやSNSによる情報発信が充実し、大迫傑さんがコースを監修されたということもあって、興味深く思っていました。当日は快晴で絶好のレース日和。昆布刈石からの眺望をはじめ景色は最高でしたが、思いのほかアップダウンが多くてハード。案の定、後半は足が残らず心も折れかけたものの、他のランナーと励まし合うことができたこと、エイドステーションのボランティアやウオーキング部門の参加者、そしてゴール近くでの家族連れを含めた多くの方々に温かい声援を頂けたことは、本当に力になりました。最後はキツさと応援のうれしさで泣きそうになりました。

このレースで印象的だったのは、運営関係者に若い方が多く、活気があったこと。地方都市は少子化や若者の流出に伴い街の賑（にぎ）わい創出が課題となっていますが、レース後に道内外の飲食店が集結する会場（ゴールピクニック）で多くの親子連れの方々がワイワイ楽しんでいる様子を見るにつけ、浦幌町の勢いを実感しました。これまで経験した中でも特に記憶に残るレースでした。

うらほろマラソンの後、1週挟んで臨んだのは鹿追トレイルラン。規模こそ大きくありませんが、手作り感溢（あふ）れるレースで、運営の方々の温かさが沁（し）みわたる大会でした。

まず、当日受付のタイミングで、地元のお子さんがマイク越しに「選手の皆さん、頑張ってください～い」と何度も声援を送ってくれてホッコリ。コースはアップダウンに加え、ぬかるみや小川を何度も横切るなどトレイルらしいハードな設定でしたが、レース終盤のチェックポイントにいた方のお子さんでしょうか、車の窓から「頑張れ～！」と大きな声援を頂いたのは、余力の少ない体への最高の刺激になりました。また、ゴール直前では選手のゼッケンを確認し「鈴木さんは初めての参加です！」などと場内に紹介してくださるなど、運営の方々の心遣いに感謝です。

レース後には近隣の温泉で大いに傷んだ身体を癒やし、少し足を延ばして東大雪湖付近の見事な紅葉を愛（め）でることもできて、実施のタイミングと立地の良さも魅力です。不思議なのは、意外にも地元の方の出走割合が低かったこと。十勝のランナーの皆さん、お勧めです。

レース月間のトリは、フードバレーとかちマラソン。既に説明不要のレースですが、今年はゴール後の「食フェスタ」も復活し、本来の盛り上がりを体感することができました。沿道からの多くの温かな応援に支えられ、着用したTシャツのロゴに反応して応援してくださる方もいらっしゃるなど、おかげさまで何とか笑顔で走り切れました。大会を支えてくださった交通整理を含めた多くのボランティアの方々、自衛隊や大会関係者の皆さま、ありがとうございました。

特に忘れられないのは、荷物預かり所で対応してくださった中高生ボランティアの方の振る舞いです。レース後に荷物を受け取ろうと預かり所に着くか着かないかというタイミングで、しかも自分のゼッケン番号を申告するまでもなく、既に私の荷物を持ってきてくださっており、さらにねぎらいの言葉までかけていただきました。もう、おじさん感動です。

これまで、比較的大きなフルマラソン大会にしか出走せず、かつ自己ベストの更新ばかりを考えてきました。しかし、十勝とのご縁を頂き、地域の方々の顔が見えるレースに参加するようになり、楽しみ方の引き出しが増えた気がしています。来年は、今年かなわなかった狩勝トレイルランなどにも出走し、地域の良さ、温かさを自らの足で味わい尽くしたいと思います。